**S1**

# 香港手話における音韻パラメータと<br>それが音韻バリエーションに与える影響

**モニカ・シャオ・ウェイ、イム・ビン・フェリックス・シ**
（香港中文大学［アメリカ］）

要旨

語彙的・音韻的なバリエーションは、手話言語で顕著に見られる。本研究は、香港手話において特に誤認されやすい音韻パラメータが存在するのか、そして、過去数十年間にわたる香港手話の理想的とは言えない伝達状況から生じたバリエーションに、このことが反映されているのかを探ろうとした。

本研究は、イギリス手話に対して過去に行われた研究（Orfanidou ほか 2009）を、修正を加えつつ再現するものである。母語話者・早期学習者・遅延学習者の 3 グループから 29 人の調査協力者を得て語彙決定タスクをおこなった。このタスクでは、調査協力者にいくつかの手話単語（人工的に設計された偽物の手話単語を含む）を見てもらい、それが本物の手話単語であるか否かを決定してもらった。得られたデータは、調査協力者が誤認した際（たとえば、偽物の手話単語を本物の手話単語と誤認し、本物として産出した場合）のパラメータの種類に応じてコーディングされた。調査の結果、3 グループのどの話者についても、3 大音韻パラメータのうちでは手の位置が、残りの手形と手の動きよりも誤認につながりにくいことがわかった。

2 つのコーパスから得られたデータについても、同様のパターンがバリエーションのパターンに反映されていないか確認が行われた。2 つのコーパス両方において、手の位置に関するバリエーションは少数にとどまり、手形と手の動きに関する音韻変種のほうが数多く見られた。

まとめると、現実のバリエーションのパターンは実験で得られたデータと一致した。手話単語に変化が生じる際には、物理的に変異しやすいような要素に変異が加わり、その結果として手の動きや手形のバリエーションが「創出され」広まっていくようである。社会的・言語的な要因は頻繁に議論されているが、本研究はパラメータそのものが内在的に持つ特性に着目し、そのような特性が変異パターンの発生に関与していることを明らかにすることで、手話言語における音韻的・語彙的変異の研究に空いていた空白を埋めるものである。